

住民意識からみた住区内街路の計画目標について

大阪大学工学部 正員 毛利正光

同上 正員 塚口博司

大阪大学大学院 学生員 ○黒田英之

1.はじめに 住区内街路は交通空間としての機能だけではなく、生活空間としての機能をも果たしており、住みよい街づくりのためにはこのような道路を整備することの必要性は大きいといえよう。しかしながら、現時点においては、各種事業化手法が整いつつあるなかで、住区内街路に対する計画論は見当たらない状況であり、今後計画手法の体系化が必要な時期に来ている。そこで、本研究では、住区内街路計画における計画課題を整理し、計画目標の設定に向けて、住民意識からのアプローチを行ってみた。

2. 調査の概要 住区内街路が比較的整備されている地区として大阪市旭区新森地区、未整備な地区として寝屋川市西部の地区を取りあげた。両地区の大きな差異は、地区的骨組みとなる道路、すなわち住区内幹線街路が新森では整備されているが、寝屋川ではその機能を果たすべき街路が機能に対応した道路構造になっていないことである。両地区において細街路に面したブロックと住区内幹線街路に面したブロックを抽出し、住民に対するアンケート調査を実施して、住区内街路の整備に対する希望等を調べた。調査は1985年11月に実施した。アンケートの配布・回収状況を表-1に示す。

		表-1 配布・回収状況			
		配布数		回収数	
新	細街路	242	199		
森住区内幹線		160	136		
寝	細街路	250	193		
屋住区内幹線		160	127		

3. 住区内街路の機能 住民が住区内街路に対してどのような機能を期待しているかを調べるために、自宅前の道路の利用実態と本来の機能に対する意識を調べた結果が図-1である。どのブロックにおいても歩行者や自転車の通行機能を期待する割合が高いが、住区内幹線街路では車の通行機能を期待する割合がさらに高く、細街路では子供の遊び空間、近所付き合いの場、日照・風通しの空間としての機能を期待する割合も高い。また実態と比較すれば、日照や風通しの空間、防災空間としての機能を期待する割合が高い。

4. 住区内街路の整備に対する住民意識

図-2は、道路整備に対する具体的な希望を調べたものである。両地区に共通する項目として大型車の通行規制、駐車違反の取締り強化、街路灯の設置、自動車の速度低下、歩道上の障害物の除去といった項目に対する希望が多い。このことから、住民の立場からみた住区内街路における交通問題の所在が明確になってくる。これを対策の面から整理してみると

- ・大型車を中心とした通過交通の流入抑制
- ・自動車の走行速度の低下

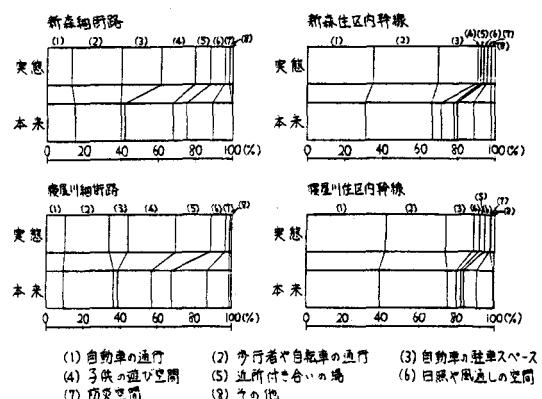


図-1 自宅前の道路の実態と本来の機能に対する意識

- ・路上駐車対策
- ・歩きやすい歩行環境の確保
- ・夜間の防犯

これらは、安全性や快適性に関するものである。

新森よりも寝屋川の方が希望が多岐にわたっており、寝屋川特有の希望としては、住区内幹線街路に対して、道路の拡幅、歩道整備の要望が強く、また緊急自動車の侵入が困難であるという指摘も多く、生活環境に対する満足度も新森より寝屋川で低いことなどから、住区内幹線街路の必要性が示唆されているものと思われる。

また、自動車通行の全面禁止、地区に關係のない自動車の進入禁止といった項目に対する希望はあまり多くない。利便性が極端に低下することに対しては否定的であるということができる。

5.まとめ 以上の結果等に基づいて、住区内街路計画の目標設定において考慮すべき項目を表-2に整理した。具体的な目標の設定は次の段階となるが、それを達成するためには住区内幹線街路の整備が必要であると考える。

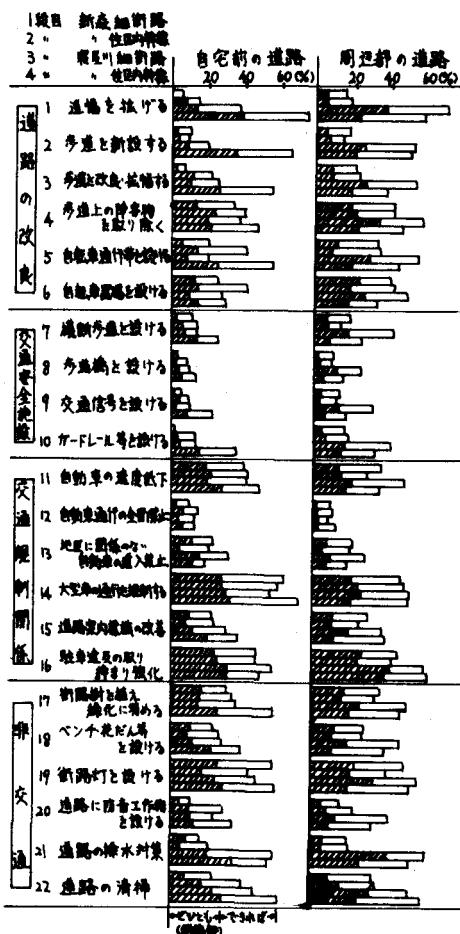


図-2 道路整備に対する希望

表-2 計画目標として設定すべき項目

項目	具 体 的 内 容
安全性（交通）	交通事故の減少／交通不安の低減
安全性（防災）	緊急自動車の円滑な活動
安全性（防犯）	夜間の安全
快適性	歩きやすい道路構造／街路景観／生活していく上での静かさ
わかりやすさ	地区外の住民が自分のいる位置を容易に認識できること
利便性	自動車使用時の幹線道路への出入りの便
コミュニティの形成	コミュニティ活動／交友圏の広がり
良好な街区の形成	日照・通風等の環境
交通処理	住区内幹線街路における円滑な交通